

ハイグレードSUVの真価



JEEP GRAND CHEROKEE

■テキスト=青柳 健司(フォトライター) ■Photo=川村 勲(川村写真事務所) ■取材協力=クライスラー/ジープ札幌琴似 ☎(011) 640-1555

プロフィール

■注目を集める存在感

今や四輪駆動車は、日本の道路においてはスタンダードの域。特に、厳しい気象条件下にある北海道のドライバーから絶大な信頼を勝ち取るに至っている。アメリカ生まれのジープこそ、その原点。流れをくむチェロキーは、SUVの先駆けであり、日本市場でも多いに受け入れられてきた。その系譜に名を刻むグランドチェロキーが、都市型SUVの世界的な代表車種であることは、今さら説明するまでもあるまい。

しかしながら、とかく「アメ車」につきまとうマッチョなイメージから、主に国内の欧州志向のユーザーからは敬遠される傾向が否めなかった。それを払拭したのが、2011年登場の現行モデルが獲得した洗練されたボディーであり、スタイリングにさらなる磨きをかけつつ、走行性・操作性ともに改良を加えたマイナーチェンジバージョンが、去る11月23日に市場投入された新グランドチェロキーなのである。

取材の前日まで行われたディーラーが主催の発売開始イベントには、既存ユーザーはもちろんのこと、欧州車で乗り付けたドライバーや、エコ系国産車所有のオーナーらの姿も多数見られ、予想を遥かに上回る大盛況のうちに幕を閉じたと聞く。かくも多方面から注目を集めているNEWグランドチェロキーの、実力を探っていく。

ディーラーメッセージ

クライスラー／ジープ札幌琴似
営業グループ担当主任

谷 恭仁さん

ライトを中心に見直されたマスクによって、より洗練されたデザインになりました。よくご覧頂ければ、随所にアンピィンが隠されていることにも気付かれると思います。その点にも、ご注目いただきたいですね。8速オートマによる加速性の向上は、2012年モデルのお客さまからもお墨付きをいただいたほどです。静粛性も向上していますので、乗れば走りの良さを実感していただけたと思います。冬期間のご試乗の際にはあえて、わだちや雪の深い道での走行をおすすめしたいですね。グランドチェロキーの実力がストレートにお分かりいただけたと思います。



走りは爽快そのもの。2200kgもの重たいボディを軽々と加速させるエンジンは強烈で、鈍重な印象は微塵もない。上り坂でもグイグイ加速するその力感は一度体感する価値のある素晴らしいものに仕上がっている。

典型的なアメリカンSUVで居住性はバツグン、ゆったりとしたクルージングが楽しめる。大きめのシートはしっかりと体を包み込み、ホールド性も良い。窮屈さを感じることは一切なく、ロングドライブでも躊躇することなくステアリングを握ることができる。疲労感を感じることも少ないはずだ。



主要諸元：(LIMITED 4WD)

- 全長×全幅×全高／4835×1935×1805mm
- ホイールベース／2915mm
- トレッド／前：1630mm 後：1635mm
- 車両重量／2200kg
- 最小回転半径／5.7m
- エンジン／3604cc V6 DOHC
- 最高出力／288ps/6350rpm
- 最大トルク／35.4kg・m/4300rpm
- JC08モード燃費／8.6km/l
- ミッション／電子制御式8速AT
- ブレーキ／前：Vディスク 後：ディスク
- タイヤサイズ／265/60R18
- 駆動方式／4WD
- 乗車定員／5名
- 車両本体価格(札幌地区)／5,428,500円(消費税込)



シートを倒すとラゲージスペースは巨大。横断な言い方をすればレジャー用品なら何でも納まってしまうほど収納性は良い。

インプレッション

■条件を問わない走行性能

8ウェイパワースhiftで適切なドライビングポジションに合わせた後、ややドライな手触りの本革巻きステアリングを軽く握ると、寒風吹きすさんだこの日はとりわけ、ヒートッドステアリングから伝わる温かみに気分もリラックス。厳寒期においてはさらに効果は絶大であつた。続いてアクセルペダルに乗せた足に軽く力を入れると、2200kgの車体はいとも軽々と前進。最小回転半径は5.7mながら、駐車場や狭い路地も難なく抜けられ、予想以上に小回りが利くように感じた。混雑した幹線道路への侵入もまったくもってスムーズである。したがってシティーユースにおいて窮屈さを感じる場面はほとんどなかった。一方、静粛性については言ひことなしである。走行中の路面の突き上げ音も微々たるもので、高性能サウンドシステムから流れる繊細な音楽もしっかりと耳に届く。

その後筆者は、市内の某峠に乗り入れてみることに。SUVならば当然とは言え、登坂道ではまさに水を得た魚状態である。最大トルク35.4kg・m/4300rpmを発生するパワートユニットが繰り出すレールの高い走りは、快感この上なく、2000回転前後の低回転域からググッとパワーを踏み込めば瞬時に4000回転オーバーに達するあたりは、何度繰り返しても胸をすく思いだった。最大で2188kgの牽引能力を発揮し、現行モデルから24%増大したというパワーを十分に実感することができた。その境地は、Dレンジで走行する時点で十分に味わえたのだが、S

■8速AT+パドルシフト

現行モデルとの違い、それはまずフロントデザインに明らかだ。中でも直線的に引き締まった形状で好評を博したフロントライトをさらにコンパクトにまとめ上げた印象。両サイドに向かってテアドロップ型のカーブが描かれていることもあつて、より精悍なマスクをまとったという感覚が強い。なかかつ、LEDクリアランスランプが標準装備され、点灯時のルクスも一段とスタイリッシュに。グランドチェロキーの象徴である、マスロトグリルとの調和も秀逸と言える。そして、このフロントデザインの進化こそが、欧州車支持層の注目を集めている大きな要因のひとつなのだ。つまり、欧州勢に匹敵する気品あふれるクルマへと昇華したと見ることもできる。

これにともなうリアライトのデザインも見直され、横に長い五角形のような形状に。フロント同様にLEDを採用し、視認性の向上とともに効率アップが図られている。インテリアに目を移すと、空間デザインそのものに大きな変更点はないものの、センターに設置された8.4インチタッチスクリーンに新味がある。回りのインテリアとの親和性も良く、それだけに変に目立つこともなく溶け込んでいたような処理は実にナチュラルで、国産車メーカーも見習うべきものがあると思ふ。もちろんドライバースhiftからの視認性・操作性もバツグンで、ドライブをしっかりとサポートしてくれる。操作性を重視する層にはパドルシフトの存在が見逃せないところ。何しろ、今回のマイナーチェンジの目玉とも言えるのが、8速オートマシフトプラスワンを採用したことにある。スポーツモードに由来する、Sに

セットすることで、マニュアル感覚の操作が可能となるが、加えてパドルシフト採用となれば、たとえオートマチック限定免許のドライバであるとしても、サーキットなどからのシフトワークが体感できるというところになる。その質の高い操作性については、後述「インプレッション」の章で触れていく。

特筆に値するのは、エテサスペンションの採用(LAREDOを除く)により路面状況に応じた車高が設定される点。ボタン操作で任意にセレクトできるつえ、オートに設定すると路面状況に応じて自動制御される。雪道、砂地、岩場、市街地など、あらゆる道で適切な走行性が導き出される安心感は、SUVのストロングポイントをさらに高め、引き上げる。

■伝統のハイパワートユニット

グレード構成は、最もスポーティーなSRT-8、高級仕様のSUMMIT、機能が充実したLIMITED、ベーシックなLAREDOの4種。SRT-8には6416ccで468ps/6250rpmを発生し、SUMMITには5654ccで352ps/5200rpmを発生するV型8気筒OHVエンジンを搭載。LIMITEDとLAREDOはともに、3604ccで288ps/6350rpmを発生するV型6気筒DOHCエンジンが積み込まれている。このように、セレクトするグレードによってエンジン性能に大きな差異があり、結果としてそれぞれに乗り味が異なるであつたことは想像に難くない。というわけで、今回試乗に提供されたのはLIMITEDであり、そのほかのグレードについては取材対象となっていないことを前置きしていき

レンジに設定のうえ軽いタッチのパドルシフト操作で一挙に2速まで落とし、そこから立ち上がりを検証すると、稚拙な表現では、こに恐縮ながら、見事としが言いようのない加速フィールである。平地においての迫力は、言わずもがなだ。果たして8速まで必要だったのかどうかの議論は後日に譲るとして、シフトワークが新グランドチェロキーの大きな魅力であることは疑いようもない。

タッチスクリーン下のボタンで、燃焼効率を高める「Eコモード」に設定できるのは、時代のニーズに応じた新機能だ。ただし、燃費性能をこのクルマの購入条件とする向きはおそらく、少数であろうからユーザーにとつては気に止める機会も少ないだろう。

ステアリングのタッチは軽快で、連続カーブにおいて車体サイズや車体重量を意識するようなシールはほとんどない。また、非力な女性ドライバーでも、楽に操れることなつた。時間などの制限から舗装道路以外、すなわち悪路での検証が叶わなかったのが心残りだが、ジープの伝統を鑑みれば、新グランドチェロキーが厳しい条件下で層の輝きを放つことは明らかである。凍てつく冬を間近にしたこの日、スタイリッシュなフォルムがひと際大きなオーラに包まれているようにも感じられた。

■長けたコストパフォーマンス

新グランドチェロキーの魅力について、最後にもうひと言付け加えたいのが、コストパフォーマンスの高さである。機能的および標準装備の充実、さらに価格相応、あるいはそれ以上の価値を実感することだろう。欧州や国内のライバル車種に与えるインパクトも、相当大きいハズだ。